

感染症ひとくち情報

感染性胃腸炎（ノロウイルス等）にご注意ください



2019年12月27日

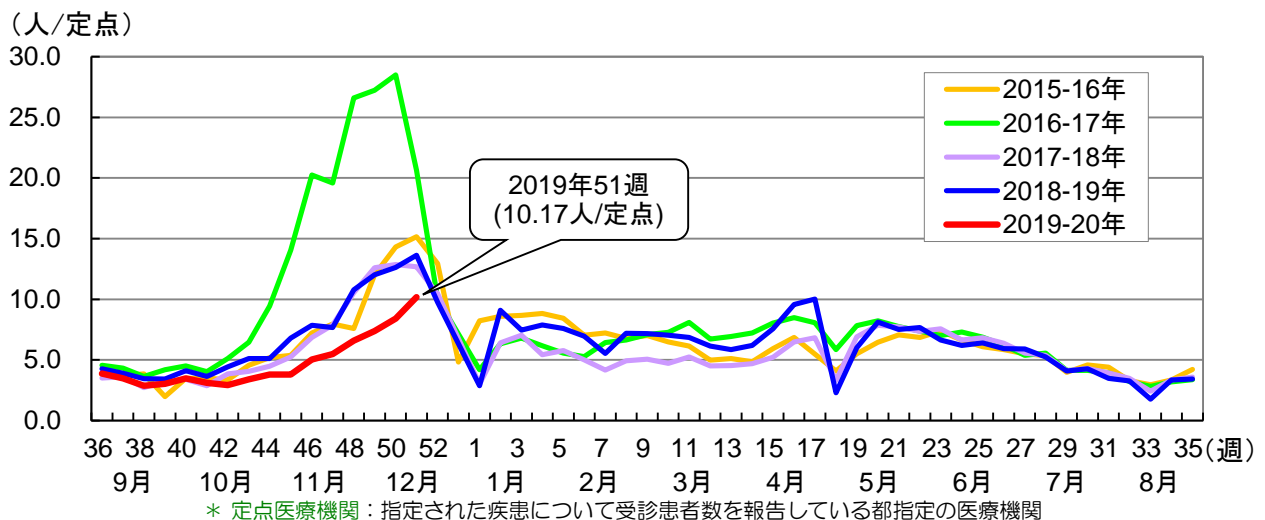
東京都健康安全研究センター

1 感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスには「ノロウイルス」「サポウイルス」「ロタウイルス」「アデノウイルス」などがあり、感染性胃腸炎の原因として最も多いものは「ノロウイルス」ですが、「ロタウイルス」「アデノウイルス」による胃腸炎は乳幼児に多く見られます。主な症状は腹痛、下痢、おう吐、発熱です。

感染性胃腸炎は、例年 11 月から増加し、12 月頃をピークとして2月頃まで多発します。

都内定点医療機関感染性胃腸炎患者報告数の推移



2 感染経路と治療

ウイルスを内臓に取り込んだカキなどの二枚貝を、生あるいは加熱不十分なまま食べて感染する場合や、ノロウイルスに感染した人が十分に手を洗わず調理した食品を食べた場合などの感染があります。

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎は特別な治療方法はなく、つらい症状を軽減するための治療（対症療法）が行われます。乳幼児や高齢者では下痢などによる脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。

3 予防のポイント

- こまめな手洗いを習慣づけましょう。特に排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- おう吐物やふん便を処理する時は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤）を使用しましょう。処理をした後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう（施設では処理用具のセットを予め準備しておきましょう）。
- ノロウイルスはカキなどの二枚貝に潜んでいることがあります。調理する際は、中心部まで十分に加熱しましょう（中心温度85～90℃で少なくとも90秒間の加熱が必要です）。

